

今回は、前回に引き続き『 出っ歯 』の治療法について お話をいたします。

成長期の『 出っ歯 』の治療で、最も大切なことは、**上下顎の水平的なズレを治す事です。**

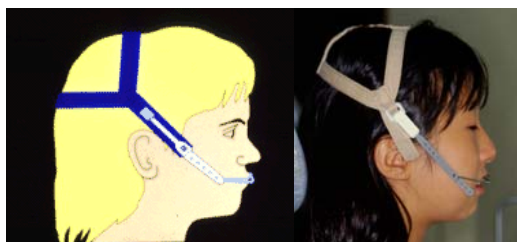
この治療が出来る年齢が、小学3年生頃 ～ 中学1年生頃までの間です。

この時期は、顎骨（歯が萌えている骨の事）の発育が旺盛な時期ですので、適切なアプローチを行えば、顎の水平的なズレを解消できます。

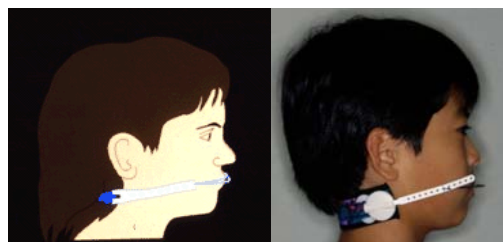
では、どのような装置で、上下顎のズレを解消するかといいますと、前回、少しレポートしました『 ヘッドギア 』という装置で、上顎骨の前方への成長を抑制する、または、上顎第一大臼歯（6歳臼歯）の後方への移動を行なうわけです。

ただし、この治療が行えるのは、上顎第二大臼歯が萌出前の時期（中学1年生頃から萌え始めてきます）に限ります。第二大臼歯が萌出してしまうと、効果があまり得られないのが実際です。

『 ヘッドギア 』には、大まかに分けて2種類あります。ハイプル型と、サービカル型のタイプがあります。



ハイプルヘッドギア



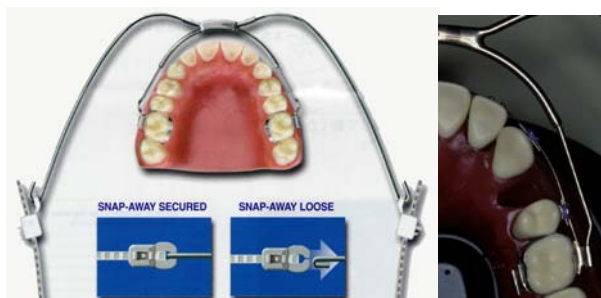
サービカルヘッドギア

ハイプル型ヘッドギアは、どのような症状の患者さんにも適用できます。つまり使用にあたり、リスクらしいリスクがないということです。ただ、積極的な大臼歯の遠心移動が出来ません。上顎骨の前方成長を抑制するのに用いるタイプです。

一方、サービカル型ヘッドギアは、大臼歯の遠心移動を積極的に行なえるのですが、患者さんのタイプを選らばないと、非常にリスクが高い装置になってしまいます。つまり、マンディブラープレーンアングル（下顎下縁平面角）が、平均値（約 32° ）で、オーバークロウが深い患者さんを選ばないと、開咬傾向になり、治療が難しくなってしまいます。ただ、ケースさえ条件に当てはまれば、非常に有効な装置です。本来 抜歯治療となるはずの患者さんが、非抜歯で治療が出来る可能性が、かなりの確立で可能になってきます。

いずれの装置も、大臼歯に装着されたブッカルチューブに、ヘッドギアのインナーポーを挿入し、アウターポーを、後上方（ハイプルヘッドギア） or 後下方（サービカルヘッドギア）に引っ張って使用します。

約400gくらいの力で、寝る時中心に



1日 8～10時間 自宅にいる時のみ、装着して使用いたします。期間的には6ヶ月位～2年位 使用するものです。

ヘッドギア使用前は、臼歯関係 Angle Class II 咬頭 対 咬頭の咬合関係 + 犬歯低位唇側転位でしたが、ヘッドギアで大白歯の遠心移動を行なった結果、臼歯関係は正常な Angle Class I になり、大白歯が遠心に移動した結果、側方歯群にスペースが生じました。このスペースを利用して、犬歯の低位唇側転位の改善などを行ないます。(症例 1)



症例 1 ヘッドギア 使用前



症例 1 ヘッドギア 使用後



症例 2 治療前



症例 2 治療後

もう1症例、Angle Class II 咬頭 対 咬頭の咬合関係、オーバージェットは 15 mm の 上顎前突症例です。就眠時にヘッドギアを装着しただけで、臼歯関係は Angle Class I 良好な咬頭嵌合位が得られました。(症例 2)

この様に、成長期の上顎前突の患者さんには、ヘッドギアというのはすごく有用な装置で症例 1、症例 2 の様に、歯を抜かなく治療する事が可能になります。

2回にわたり、上顎前突（出っ歯）の治療法についてお話しいたしましたが、もう一度復習いたしますと、

上顎前突の最適治療

- 1、下顎前方成長促進（小学1年生～3年生頃） スライディングプレート etc.を使用
- 2、上顎骨前方成長抑制（小学4年生～5年生頃） ヘッドギアを用いる
- 3、マルチブラケット装置で最後の仕上げ・良好な咬頭嵌合位（中学1年生～3年生）

上記の様に出っ歯の治療は、早い時期からの矯正治療 つまり、上下顎の水平的なズレを解消する事により、非抜歯治療の可能性を高める事ができます。

『もう少し待ちましょう』とか、『大人の歯になるまで待ちましょう！』などの、カウンセリングは決して信じないようにしましょう！

そうしないと歯を抜く治療になってしまいますので 気をつけましょう！